

# 品質向上、販路拡大による売れる米作りプラン（変更）

（認定農業者）

実施主体 倉吉市 山脇 優

## 1. 農業経営の現状と目標

現在、私は米の乾燥、粳摺り、精米施設を整備し、19ha 規模の稲作経営と米の販売をしています。販売先は、県外の米穀業者に直接、販売しております。平成 22 年には、冷蔵貯蔵庫を整備し、玄米 400 袋（30kg）を冷蔵貯蔵庫に保管して、年間をとおして、県内外の飲食店、消費者へ販売を行っています。平成 26 年には、色彩選別機を導入し、より良質で美味しいお米を提供することが可能となり、皆さんから喜ばれています。

平成 23 年の水稻作付面積は 10ha でありましたが、平成 27 年の水稻作付面積は 19ha（コシヒカリ 7.9ha、きぬむすめ 5.6ha、ひとめぼれ 1ha、ヒメノモチ 0.4ha、飼料用米 4.1ha）となり、5 年間で、経営規模を大幅に拡大することができました。しかし、面積の増大にともない、天候不順の影響を受けやすく、適期刈取が出来なくなることがあり、お客様に良質なお米の販売が出来なくなっています。今後は、刈取り時期を逃さないよう、新たにコンバインを導入することで適期刈取をし、さらに品質を向上させます。特に、モチ米については、モチ業者からの注文があることから、増反して、規模拡大に努めていきます。

また、規模拡大に伴い、耕耘等の作業や、草刈り作業が増加しており、労力・金銭ともに負担が増加してきております。トラクターの増台とハンマーナイフモアーの導入により、適期に効率的な作業を行うことを目指します。 農業従事者については、現状では臨時雇用が確保できていますが、年々高齢化してくるため、若年労働者の確保を行っていきます。

私の耕作している地域の周辺は、中山間地域も多く、高齢化等により、荒廃農地が増えつつあります。地域農業を支える担い手として、貸し出し希望のある農地をできる限り引き受け、中山間地域の農地保全にも努めてまいります。

経営規模の目標

作目		H27 (現状)	H28	H29	H30	H31 (目標)
水稲		19.0 ha	20.0 ha	22.0 ha	22.0 ha	24.0 ha
	ひとめぼれ	1.0 ha	1.0 ha	1.0 ha	1.0 ha	1.5 ha
	コシヒカリ	7.9 ha	8.0 ha	8.5 ha	8.5 ha	8.5 ha
	きぬむすめ	5.6 ha	6.0 ha	7.4 ha	7.4 ha	8.2 ha
	モチ米	0.4 ha	0.5 ha	0.6 ha	0.6 ha	0.8 ha
	飼料用米	4.1 ha	4.5 ha	4.5 ha	4.5 ha	5.0 ha
作業受託	<u>耕耘(追加)</u>	-	-	-	<u>3.2 ha</u>	<u>3.5 ha</u>
	<u>代かき(追加)</u>	-	-	-	<u>3.2 ha</u>	<u>3.5 ha</u>
	田植	1.5 ha	1.5 ha	2.0 ha	2.0 ha	2.0 ha
	刈取 乾燥 粃摺り	11.5 ha	12.0 ha	12.5 ha	12.5 ha	13.0 ha

労働力の計画

		H27(現状)	H31(目標)
本人		130 日	150 日
妻		90 日	100 日
子		20 日	30 日
雇用	臨時 (延べ)	100 人	(120 人) <u>80 人</u>

機械・施設所有状況（平成 27 年 12 月現在）

機械・施設名	形式、性能、規模等、台数	導入年度	備考
トラクター	41ps 1台 30ps 1台 <u>(共同利用)</u>	H24 H18	
田植機	6条 21.6ps 1台	H27	
コンバイン	4条 GC441 41ps 1台	H20	
乾燥機	20石 SDR20 1台 30石 SDR30 1台	H20 H20	
粃貯蔵タンク	37石 1台	H20	
フォークリフト	1台	H20	
粃摺り機	NPS550 1台	H20	
精米機	PS300 1台	H20	
粃クリーナー	PC 3500 1台	H21	
米貯蔵冷蔵庫（自作）	20 m <sup>3</sup> 500袋(30kg)収納	H22	
色彩選別機	FGS-2000S 1台	H26	

## 2. 目標達成のための課題と改善内容、効果

### (1) 経営規模の拡大

- ・所有機械の能率向上により、経営規模（受託面積）を拡大。
- ・中山間地の農地保全のため、条件不利地での受託面積の拡大に努める。

### (2) 販路の拡大

- ・モチ米の作付面積を拡大し、県内外へさらに販路を拡大する。

### (3) 品質向上

- ・高性能コンバインの導入により、刈り遅れを防ぎ、適期刈取りによる品質の向上に努める。

## 3. 具体的な取り組みと役割分担、支援事業内容

### (1) 具体的な取り組みと役割分担

項目	H28	H29	H30	負担区分
コンバイン導入	◎			県・市・本人
<u>トラクター導入</u>			◎	<u>県・市・本人</u>
<u>ハンマーナイフモアー導入</u>			◎	<u>県・市・本人</u>
モチ米の増反	○	○	○	本人
作業受託の拡大	○	○	○	本人

◎は県、市の支援を必要とするもの ○は支援事業以外の取り組み

### (2) 支援事業内容

項目	数量	事業費 (円)	負担区分 (円)			
			県 (1/3)	市 (1/6)	本人 (1/2)	
H28	コンバイン	1台	8,890,000	2,963,333	1,481,667	4,445,000
	小計		8,890,000	2,963,333	1,481,667	4,445,000
H30	<u>トラクター</u>	<u>1台</u>	<u>6,720,000</u>	<u>2,240,000</u>	<u>1,120,000</u>	<u>3,360,000</u>
	<u>モアー</u>	<u>1台</u>	<u>1,920,000</u>	<u>640,000</u>	<u>320,000</u>	<u>960,000</u>
	小計		<u>8,640,000</u>	<u>2,880,000</u>	<u>1,440,000</u>	<u>4,320,000</u>
合計			17,530,000	5,843,333	2,921,667	8,765,000

## 4. 導入機械

### 【導入済み】4条刈コンバイン

現在、所有のコンバインは、総排気量 1,496cc、燃料タンク容量 50L、走行速度 0～1.25m/s（標準）、糞タンク容量 1,050L などの能力のコンバインですが、このたび、新規に追加で導入予定の高性能コンバインは、第 3 次排出ガス規制適合で、総排気量 3,318cc、燃料タンク容量 90L、走行速度 0～1.6m/s（標準）、糞タンク容量 1,550L となります。給油回数の減少、走行速度のアップ、糞の排出回数の減少などによる能率向上が見込まれ、刈取作業の実作業時間が、現状の 3 分の 1 程度にすることができ、刈り遅れによる品質低下を防ぐことができます。そして、短縮した作業時間を糞摺り作業に従事し、残業をしなくてもその日の作業が終わるようにして行きたいと思えます。また、適期刈取により、米の品質が向上し、受託作業を含めて、経営規模を大幅に拡大することが可能となります。

### 【新規導入】トラクター（52ps）、ハンマーナイフモア

現有のトラクターのうち、1 台（30ps）は共同利用機械であり、畔塗り専用機として使用されているものです。規模拡大にともない、現状のトラクター（41ps）1 台での作業では追いつかなくなっております。今回新たにトラクター（52ps）を導入することにより、耕耘や代かき等の作業を同時に行うことができ、適期での作業が可能になります。

草刈り作業について、現在は人力（外注）で行っておりますが、田植え前に 1 回、田植え後に一ヶ月ごとに 3 回行わなければなりません。委託する作業員も高齢化し、特に夏場の作業は熱中症への心配から長時間の作業ができず、作業効率も低下してしまいます。上記の高齢化を理由に作業員の確保も年々難しくなっており、地域の担い手として農地を守っていくためには、草刈り作業の機械化が必須となってきております。また、増反すればするほど草刈り作業の負担は大きくなりますが（時間的・金銭的）、ほ場の多くは道路沿いであることからハンマーナイフモアの作業効率は高く、草刈作業にかかる年間労務費約 50 万円の削減を見込んでおります。

この取り組みにより、トラクター 2 台体制での「草刈・耕耘・代かき」の同時作業が可能となり、適期に効率的な作業ができます。また、これまで、機械作業にあたるオペレーターが基本的には 1 人であったところが、今後は複数人体制とすることができ、後継者の育成をますます推進していくことができると考えております。

飲食店、消費者への販売米用（10kg）



米穀業者への販売米用（30kg）



## 販売先（現状と計画）

